



癒しと救いを求めて

南山城三十三所

第一番

1

瓶原
みかのはら

かい
じゅう
せん
じ



QRコードを読みとついた
だくと、Web版をご覧いただけます。



鎌倉時代 本瓦葺 17.7m 国宝

鎌倉時代の五重塔の貴重な遺構で、総高17.7mと、室生寺に次いで小さい。貞慶(じょうけい)が舍利を安置するために建立を始め、その没後建保2年(1214)に完成しました。全体的に細身ですが、初重に設けられた吹放ちの裳階(もこし)が安定感を与えます。

豆知識 / 裳階(もこし)

仏堂・仏塔などの軒下壁面に取り付けた庇(ひさし)状の構造物。

寺伝では、創建は天平七年(七三五)聖武天皇が大仏造立平安祈願の為、良弁僧正に命じて建立させ、十一面觀音を安置し、觀音寺と名付けたのが始まりで、のち保延三年(一一三七)に焼失したと伝わります。その後、承元二年(一二〇八)笠置寺にいた解脱上人貞慶がこの觀音寺の廃址に移り住み、草庵をいとなみ、海住山寺と名を改め中興しました。この後を継いだ慈心上人覚真は先師の遺志をうけ、戒律の道場として、寺觀の整備に力をつくしました。現存の五重塔(国宝)は、建保二年(一一一四)慈心上人によって建てられたもので、心柱が初層で止められている点は、建築史上有名です。のち、寺門は大いに栄えて塔頭13院32坊をかぞえた時期もありましたが、天正年間には本堂を中心に整備統一されました。ご本尊の十一面觀音は厄除の觀音様として信仰を集めています。

※五重塔開扉と特別公開は、
毎年10月最終土曜日から10日間

海住山寺に
根を張る
ヤマモモ。



境内の山林に生育する大木の中でもとりわけ大きく、枝の一部が本坊の庭に張り出します。訪れる人の目を引いています。府内最大のヤマモモです。



【本尊十一面觀音立像】

樅(かや)材の一木造の立像です。顔は面長で、目は細く、独特の神秘感が漂います。条帛(じょうはく)や天衣の衣文は縁に丸みがあり、一見、乾漆像の衣文のように柔らかく表されています。

平安時代 木造 167.9cm 重文





もち上げ大師



癒される落ち着いた古寺です。

木津川市内を一望できる山の中腹にある山寺。鎌倉時代の傑作・五重塔が有名ですが、境内には、なすの腰かけやもち上げ大師など、ちょっと変わったものがあります。

います。

①② 補陀洛山 海住山寺

電 0774-76-2256

住 木津川市加茂町例幣海住山20

時 9:00~16:30

駐 20台(参拝時は無料)

アクセス ■JR加茂駅からコミュニティバス奥畠線(平日運行)
「海住山寺口」下車、徒歩約25分
■奈良交通バスで「岡崎」下車、徒歩約40分
■JR加茂駅からタクシーで約10分

料 500円(入山料を含む)
※境内のみの方は入山料100円
※特別展期間中は別料金と
障害者割引あり

豆知識 / 持ち物、蓮華

泥の中から花を咲かせることから煩悩や苦しいことに汚れることのない悟りの象徴です。



【5軀の観音像】〈府指定有形文化財〉

作りや法量に差異が認められ、本来一具として制作されたものではないようです。
不空羈索観音像は、胎内から発見された文書から、徳治3年(1308)正月11日に1日で作られたことが確認され、他の4像もほぼこの頃の造立と考えられています。



馬頭観音立像

鎌倉時代 木造 111cm 府指定



聖観音立像

鎌倉時代 木造 109cm 府指定



本尊 【千手観音立像】

千手観音立像は十一面、四十二臂の通常のもので、燈明寺の本尊と伝えられています。

鎌倉時代 木造 172cm 府指定



十一面観音立像

鎌倉時代 木造 182cm 府指定



不空羈索観音立像

鎌倉時代 木造 180cm 府指定

秋の特別期間のみ公開

老宿坊



おひらくのやどりに
ゆめをナませとや
たにのみずをと
みねのまつかせ



秋の特別期間のみ公開

第二番

海住山寺 奥の院

おひらくのやどりに
ゆめをナませとや
たにのみずをと
みねのまつかせ

【奥の院本尊十一面観音立像】

頭上の化仏や両腕、天衣の垂下部をふくめ一材から彫出されており、表面に彩色をほどこしない檼像です。鏡のある鋭い眉、切れ長の眼など彫りは、小像ながら観音の威厳と優雅さを兼ね備えた優品。海住山寺中興の祖解脱上人貞慶の念持仏であったと伝えられています。

平安時代 木造 45.5cm 重文

第三番

加茂 燈明寺



燈明寺(東明寺)の創建については奈良時代とする説と平安時代とする説があります。鎌倉時代末頃に整備されました。その後は荒廃と再興を繰り返したようです。『拾遺都名所図会』巻之四に18世紀末の燈明寺の全容が描かれていますが、三重塔は大正三年に、本堂は昭和五七年に横浜市の三渓園に移され(いずれも重要文化財)、今に残るのは寛文二年(一六七二)に建てられた庫裏と、鎮守社であった御靈神社です。

本堂の跡地には昭和六〇年に収蔵庫が建てられ、観音像5軀を初めとする文化財が収納されています。一般財團法人川合京都仏教美術財団が維持管理しており、毎年文化の日前後に数日間公開されています。



三重塔
(横浜・三渓園)
©(-社)木津川市觀光協会



旧燈明寺収蔵庫

©(-社)木津川市觀光協会

③ 旧燈明寺収蔵庫

電 075-761-9670 (一般財団法人 川合京都仏教美術財団)

住 木津川市加茂町兔並寺山42-1 駐 無し

アクセス ■JR加茂駅から徒歩約15分 ■コミュニティバス山田線(平日運行予約型乗合タクシー)で「兔並」下車、徒歩約5分

4 加茂常念寺



室町時代、天台宗の真盛上人が伊賀上野から京へのぼる途中、加茂に立ち寄り、念佛の

法話をつとめ、この時円阿弥が本願となり、盛憲が開基となり、加茂郷の市街地船屋に念佛伝導のために寺を創建したのが「常念寺」です。その後、正徳二年の大水害に遭い、現在地に移りました。

また、山腹には平和観音像（身丈6メートル、平成一二年造立）が高台から加茂の郷一円を見守っています。

かのくにやこの
いのちそへかも村の
まつのときばに
おもふてらかな



室町時代 木造 92cm

【十一面觀音立像】

平成時代に修復して全体に金箔を張り替え、春日厨子を新調しました。

第九番

9 市坂觀音堂



かぜわたる このまの
月のうつるにぞ
うごくほとけの
みかげなるらん

2メートル四方ほどの御堂が3棟連続して並んでいる右側が觀音堂です。奈良春日山におわした石の大觀音さまは、多くの村の人たちが合力しても、ビクともしなかったのですが、市坂村の村人の真心が通じたのか、ようやくこの地に動座されました。村人たちは、御堂の建立、慶応二年（一八六六）に再興棟上などが墨書きされています。現在の御堂は昭和四七年のものです。

【十一面觀音立像】

室町時代 石造 約150cm

9 動觀音堂

住 木津川市木津市坂幣羅坂103 時 終日 駐 最寄り空地に3台程

アクセス ■JR木津駅から徒歩約30分
■コミュニティバス（木-1）で「市坂南口」下車すぐ



【千手觀音立像】

時代不詳

非公開

6 鹿山西念寺

※繼承寺院の
御朱印です



西念寺に引き継がれた記録
が残っています。

かせのやま こすへ
かれても さく花と
しらくもへなを
かゝるうれしさ

6 鹿山西念寺

電 0774-72-0175

住 木津川市鹿背山鹿曲田65 駐 無し

アクセス ■JR木津駅から徒歩約40分
■コミュニティバス（木-2）で「鹿背山」下車、徒歩約15分

6 鹿背山淨勝寺



※繼承寺院の
御朱印です



本尊阿弥陀如来像をはじめ、地蔵菩薩像、十一面觀音菩薩像、十王像などがあり、書画では（国重文）仏涅槃図、三千仏図、真盛上人六字名号などがあります。

石造で、盛憲の六字名号板碑、大坂城再建築石に使われなかった「残念石」があります。

4 多聞山常念寺

電 0774-76-2324 【お寺の拝観は要予約】
住 木津川市加茂町里小田22 料 お心持
時 10:00~16:00 駐 10台
アクセス ■JR加茂駅から徒歩約10分
■コミュニティバス南加茂台線
(平日運行予約型乗合タクシー)で「南加茂台1丁目」下車、徒歩約6分

【十一面觀音立像】

平成時代に修復して全体に金箔を張り替え、春日厨子を新調しました。

第九番

9 市坂觀音堂



かぜわたる このまの
月のうつるにぞ
うごくほとけの
みかげなるらん



【十一面觀音立像】

室町時代 石造 約150cm

9 動觀音堂

住 木津川市木津市坂幣羅坂103 時 終日 駐 最寄り空地に3台程

アクセス ■JR木津駅から徒歩約30分
■コミュニティバス（木-1）で「市坂南口」下車すぐ